

1月24日「識別力と制御力を備えた人は、最高位に到達します。」

前回、個人的に「どうして解脱へのやる気が出ないのかを内省してください」と宿題を出しました。前に、ウパニシャッドの勉強の準備の中で、「ムムクシュトゥワ」(mumukshutwa・解脱の願望)を説明しました。

皆さんの霊的障害はそれぞれ違いますから、いつもそれを内省して見つけて取り除かないと、進むことができません。「どうして解脱へのやる気がないのか」と同じことです。また、内省は1回だけで終わらず、時々見直すことも必要です。

仕事の時にミスをしたら、上司に怒られるというプレッシャーがありますから、内省します。しかしこの種類の内省にはプレッシャーがありません。プレッシャーがあると皆さんの心はやりませぬ。それを個人的に内省しないと、今生、来世、その後…いつか解脱できるまで、あなたは待っているのですか。

解脱に向かうやる気を高めるために

ある木に果物が熟して実っています。あなたはその果物が食べたいと思いました。1つは、自然に落ちてくるまで待って食べます。もう1つの方法は、木を揺らして、その果物を落として食べます。

あなたには、2つのオプションがあります。ずっと待っているか、すぐに欲しいか。

すぐに欲しいなら、その1つの方法が「内省する」です。何が障害になっているのか、どうしてやる気が出ないのか、それを理解しないと進むことができません。何回も生まれ変わりたいのか、それを止めたいのか。

解脱の大きな結果は、肯定的には「最高の幸せ、最高の至福、最高の平安と知識」を得ます。「アムリタ フアラ (amrita phala)」です。アムリタは甘露、フアラは果物です。その果実を食べると不死になります。それを食べたいなら、皆さん、内省してください。

次の節です。大体同じアイデアです。どうして、何回も何回も同じことが出てくるのでしょうか。1回だけだと印象が深くなりませぬ。聖典は私たちにとって、賢い良心です。ですから、いつも大事な人生について何回も何回も言っています。

Vijñāna sārathiryastu manaḥ pragraha vānnaraḥ ;

So'dhvaṇaḥ pāramāpnoti tadviṣṇoḥ paramam padam . (Katha Upanishad 1.3.9)

しかし、御者としての識別力と手綱に対する制御力を備えた人は、道の終点、つまりヴィシュヌ神の最高位に到達します。

vijñāna sārathi : 識別できる賢い御者 manaḥ pragraha vān : 心を手綱で制御できる心をもった
naraḥ : 人 so'dhvaṇaḥ : その人の結果 pāramāpnoti : 輪廻を超越します tad : つまり
viṣṇoḥ : ヴィシュヌ神 paramam : 最高の padam : 状態

識別できる賢い人とは、何が永遠で何が一時的なのか、何が無限で何が有限か、何が相対的で、何が絶対的か、何がプレーヤで何がシュレーヤか、を識別できる、賢い知性（御者 sārathi）を持った人です。

そして、心を制御できる人とは、識別ができてシュレーヤをいつも好んで実践する心を持った人。普通の人ではなく求道者です。どのような求道者かという、とても賢く心のコントロールができる求道者です。

サム サーラム ヴィッディ (sam sārām viddhi) という言葉を前に勉強しました。サム サーラティ (sam sārati) とは、「この世界、この生活、いつも動いています」という意味です。そのような世界に執着して好きになると、私たちの苦しみ、悲しみがなくなりません。少しの楽しみはありますが、いつも、ストレス、疑い、恐れがずっと続きます。

しかしブラフマンは動いていません。普通のもの（生き物）は、時々苦しみ、悲しみ、衰えてなくなります。が、ブラフマンはいつも変わりません。

それをサンスクリット語で、クータスタハ (kūtasṭah) と言います。何も変化しない、衰えない、いつも同じ状態、という意味です。皆さんが自分の心を観察すると、心はいつも動いています。クータスタハは、外の状態が変化しても、心はそれについて何の影響も受けずいつも静かな状態のことです。その種類の人の知性がクータスタハです。その種類の心はとても純粹です。ブッディもとても純粹です。そのような心は、ブラフマンと一緒にです。

「ラーマクリシュナの福音」の中にそのことが書いてあります。シュッダ アートマー (śuddha atmā)、シュッダ ブッディ (śuddha buddhi)、シュッダ ブラフマン (śuddha brahman) は、同じものです。それが、クータスタハの状態です。

しかし、「vijñāna sārathiryastu manaḥ pragraha vānnaraḥ」の人は、「so' dhvanaḥ pāramāṇoti」生まれ変わり、輪廻を超越します。

「tadviṣṇoḥ」は、ヴィシュヌからきています。ヒンドゥー教の主な神様は、ブラフマー（創造の神）、ヴィシュヌ（維持の神）、マヘーシュヴァラ（破壊の神・シヴァ）です。ある前後関係でそうになっていますが、ヴィシュヌとパラマートマン、シヴァとパラマートマンのアイデアもあります。ですからここでは、ヴィシュヌは普通の維持の神ではありません。パラマートマンです。ブラフマンと一緒にです。

つまり（タド・tad）、ヴィシュヌ神（ヴィシュノハ・viṣṇoḥ）を悟れば、最高の（パラマン・paramān）状態（パダム・padam）を得ることができます。

「最高の結果を得る」という意味の内容が、協会から出ている CD「universal prayer」の中にあります。「Srinvantu vishve」という曲です。

*Shrinwantu vishve amritasya putra
Vedamayetaṁ puruṣhaṁ mahantam
Tvameva vidithvati, mṛityu methi*

*Aa ye dhamani divyani tashtu
Aditya varanam tamasa parastath
Nanyah pantha vidyathe ayanaya*

(shvetashvatara Upanishad /2-5)

「tvameva vidithvati, mṛityu methi」とは、「生と死を超越します。」という意味です。また、結果について、ムンダカ・ウパニシャドでは、こう言っています。

Bhidyate hṛdaya granthi chidyante sarvasaṁśayāḥ ;

kṣīyante cāsya karmāṇi tasmindrṣṭe parāvare . (muṇḍaka upaniṣad 2.2.8)

無知と知識の結び目を切って、無知がなくなり知識だけが残る、すべての疑いがなくなります。

人生の目的について、自分の本性について、ブラフマンの本性について多くの疑いがありましたが、すべてなくなります。私たちのカルマの結果は、「善い」も「悪い」も両方とも鎖です。アートマンを縛っている鎖です。それが段々衰えて最後にはなくなり、その最高のブラフマンを悟ってなくなります。

その結果、サット、チット、アーナンダを得ます。

最高の至福の状態をイメージする

また、バガヴァッド・ギーターの6章 22 節に結果を得ることについて書いてあります。

ヤン ラドヴァー チャーパラン ーパラン ラーバン マンニャター ナ ーディカン タタハ
Yan labdhvā c' āparāṁ āparāṁ lābham manyate n' ādhikāṁ tataḥ /
ヤスミン スティトー ナ ドゥフケーナ グル ナー ビ ヴィチャーリャター
yasmin sthito na duḥkhena gurunā' pi vicālyate // 6-22

これに勝るものはないという至高の境地に達すれば、たとえいかなる困難に遭おうとも、
ヨーギーの心は少しも同様することがない。

ブラフマンを悟って最高の至福の状態に入り、他の楽しみ、喜びと比べる (lābham) と、他の楽しみ、喜び
がすべて小さく見えます。

もちろん、私たちは最高の至福の経験がありませんから、今の楽しみよりそれをイメージすることが難しい
ですが、世俗の例えで考えてみましょう。超高級車を持っていたら、普通の車を欲しいと思う欲望が出ません。
家がとても広く、環境もよく、きれいなら、騒音がひどくて、狭い家に住みたいと思いません。それと同じで
想像することはできます。

至福の例が、タイッティリーヤ・ウパニシャドの中に1つのイメージとして描かれています。

「生まれが良く、博学で、知恵に優れ、屈強で、健康で、世界の富がその掌中にあるような若者の運命を考
えてみよ。…」(協会発行「ウパニシャド改訂版」P114~115)

その人間の世界を1ユニットと計算して、次の天国がその100倍、その次がまたその100倍…と、天国の
レベルに応じた楽しみレベルが書いてあります。そして、最高の天国がブラフマ・ローカです。その最高の
天国よりも、悟った人の喜びの方が、もっと大きいです。

しかし、それを勉強しても、私たちは今この世界に住んでいるので、天国の楽しみ、喜びがどれくらい多い
かもわかりません。本当のイメージができませんが、霊的な楽しみがどのくらいかのセオリーが浮かびます。

霊的な歌や神聖な歌を聴いて、神様の名前を唱えて踊り、そして、神様のことを深く考えて瞑想する経験が
できたら、特別な喜び(バジャナーナンダ)が出ます。その喜びは、世俗の喜び(ヴィシャヤーナンダ)と全
然違います。その経験をする事は可能です。

神聖な歌は外ですが、それが中の喜びの源と合わせることで、霊性をもっと上がります。つまり、至福の源
は外からではなく中から出てきます。

タイッティリーヤ・ウパニシャドに書いてある天国の楽しみも、本当はそれも世俗と同じ、普通の楽しみで
す。世俗的な楽しみと天国の楽しみの違いは、粗大的が精妙かの違いです。ですから、両方とも世俗的な楽
しみです。

そして、ウパニシャドが言っているのは、天国に行くことではありません。世俗の楽しみも、精妙な天国の
楽しみも、ある時、なくなります。永遠ではありません。善いカルマの結果で、人が亡くなると天国に行きま
すが、善いカルマの結果がなくなったら、また生まれてこなければなりません。

人生の目的は、ブラフマ・ローカに行くことではなく解脱です。ブラフマンを悟ることです。その喜び、楽
しみは、アートマンから出ます。それが「ヴィシュノハ (viṣṇoḥ)」を悟れば、最高の「パラマン (paramāṁ)」
状態「パダム (padam) を得る」です。

ブラフマ・ローカの楽しみは、長い間続きますが、永遠と比べると一時的で有限です。ブラフマン、アート
マンの楽しみは永遠で無限です。その2つの楽しみの違いが特徴です。

そして、「yasmin sthito na duḥkhena gurunā' pi vicālyate」(たとえいかなる困難に遭おうとも、ヨーギーの心
は少しも同様することがない)。大きな苦しみの状況に入っても、中は、その喜びでいつも静かですから、心は
苦しみません。その偉大な完璧な例は、シュリー・ラーマクリシュナです。

「ラマクリシュナの福音」の中に、2つの異なる話があります。ある時、シュリー・ラマクリシュナが神聖な歌を歌って踊っている時、特別な喜び（バジャーナナダ）からブラフマ・アーナダ（サマーディ）に入りました。

また、咽頭ガンで肉体がなくなる前、硬い食べ物はまったく食べることができず、激痛があり、喉から出血して水も飲めず、時々食べ物も吐いていました。もし、普通の病人ならとても苦しく、周りの人も苦しい悲しい状態です。しかし、そのような状態にあっても、シュリー・ラマクリシュナの直弟子たちは、神様の歌を歌って踊っていました。そして、シュリー・ラマクリシュナは、苦しい状態でも神様のことを話して、時々サマーディに入っていました。それは信じられないことです。心を病気から引き戻して、その心を神に向けています。普通は想像もできない状態です。それが「yasmin sthito na duḥkhena guruṇā'pi vicālyate」です。これが人生の目的です。

私たちがブラフマンを悟れば、その状態を得ることができます。私たちに解脱への願望がなかったら、それは無理です。そのことを想像しないと、苦しみと悲しみの経験がずっと続きます。

何回生まれても、肉体は新しくても、心は前の心、知性も前の知性、記憶もエゴも前と同じ状態です。バガヴァッド・ギーターのこの節をイメージして、「私たちの目的は悟ること。悟ることでその状態になる。」ということを理解しないと、解脱へのやる気が出ません。